

	中期目標	担当責任者 （役職名等）	評価指数（2025～2029）							主な取り組み（2025 年度）	実績（2025 年度） 今後の取り組み・対応
				20250	2026	2027	2028	2029			
2 教学改革計画	安定的な定員確保	園長	入園定員充足率 (%)	0 歳	100	160	160	160	160	・引き続き笠間市子ども福祉課と連携を図りながら、安定的な定員確保に努める。 ・年度途中での未満児（特に 0 ・ 1 歳児）の入園希望が多いため、各学年の園児のバランスを考慮し職員配置の見直し等も行いながら、柔軟に受け入れ体制を整える。	
				1 歳	116	100	100	100	100		
				2 歳	100	100	100	100	100		
				3 歳	85	90	95	100	100		
				満 3 歳	随時	随時	随時	随時	随時		
				4 歳	85	85	90	100	100		
				5 歳	65	85	90	100	100		
				合 計	87	93	96	102	102		
	情報発信			※実績（見込）							
カリキュラム改革 キャリア支援	幼児体育	園長・主任 年長担任	礼法指導							・保護者からの希望もあり、実施に向けて進めていく。 ・日常の所作や言葉遣いを中心として、保育に取り入れていく。また、5 歳児においては修了式に生かしていくよう計画的に指導する。 ・園内農園の充実。園児と計画的に耕作し、食への意欲関心、感謝につながるようにする。 ・絵本に触れる機会の充実や読み聞かせ活動の充実を図り、言葉の発達を促すことに繋げていく。また、園内の図書環境の見直しを進める。 ・附属園間の積極的な園児交流を計画し、笠間市内の公園等を活用しながら活動に取り入れていきたい。	
	小笠原流礼法			1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回		
	食育	園長・主任 食育担当									
	読み聞かせ等の充実	園長・主任 図書担当									
	園児交流	園長・主任 園内リーダー									
3 学生募集対策と 学生数・学納金等 計画	一時預かり保育	園長・主任	入園者数	0 歳	3/3	5/3	5/3	5/3	5/3	・一年を通し一時預かり保育の利用者が多い。利用児が入園希望につながっているため積極的に受け入れることで園児確保に繋げる。 ・近隣に保育施設が多いため、保育内容・保育環境等で差別化を図っていく。	
				1 歳	14/12	12/12	12/12	12/12	12/12		
				2 歳	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15		
				3 歳	17/20	18/20	19/20	20/20	20/20		
				満 3 歳							
				4 歳	17/20	17/20	18/20	20/20	20/20		
				5 歳	13/20	17/20	18/20	20/20	20/20		
				合 計	79/90	84/90	87/90	92/90	92/90		
	他園との差別化										

4 人事政策と人材育成	研修体制づくり 園内研修の充実 外部研修受講促進 附属園との交流	園長・主任 主任 研修主任 園長・主任 研修主任 園長・主任							<ul style="list-style-type: none">・研修主任を配置し、園内研修の体制を確立できるようにする。また、多様な保育認識をもつ職員同士情報共有を図り保育の質向上に繋げていくようにする。・茨城女子短期大学の先生による保育助言や保育に関する講話を聞く機会を設け、職員自らが向上心をもてるような環境づくりを進める。・自己研修及びキャリアアップ研修受講促進。・県保育協議会等外部研修への積極的参加。・各附属園から移動した職員構成のため、比較的各園とも交流しやすい環境にあるため、その強みを生かして各園との情報交換・交流の充実を進め、互いに相談しやすい環境づくりに繋げたい。	
5 経費削減計画		園長 主任 事務							<ul style="list-style-type: none">・教材の管理を適切に行い、日常の製作活動においては廃材等を活用するなど、経費削減を図る。	
6 施設整備計画	体調不良児に対応できる保健室の整備 ICT の活用 園舎の老朽化対策 園舎修繕 未満児用トイレ改修	園長 看護師 園長・主任 保育士 園長 園長							<ul style="list-style-type: none">・2024 年度末に体調不良児室を新設し看護師を配置して体調不良児保育を行う。・安心して子どもを預けられる環境として他園との差別化を図り選ばれる園にしていく。・園児管理システムの見直しを図り、保護者連絡ツールとしての活用を充実させる。・活動計画等、データ管理を徹底し、書類作成等の業務軽減に繋げる。・ガラス戸の木枠が劣化によりささくれが出てきている。事故防止のため、修繕を急ぎたい。・元々学童保育室として整備した部屋を未満児保育室として使用しているため、特にトイレが大変使いづらい状況にある。園舎造り付けの物置のスペースを活用し、トイレの拡張をしていきたい。	